

北海道から夢を描くドラマー／パーカッショニスト 常松将行【Masayuki Tsunematsu】



生まれ育った北海道で培った独特の音楽性とロサンゼルスで学んだ技術を融合させたジャンルを超越した独創的な演奏が魅力。2015年に日本と西洋の音楽要素を融合し、新境地のアンサンブルを追求するプロジェクト＝ワートシンフォニーを結成。

深い“北海道愛”と“打楽器愛”と共に、壮大な夢を持ち、北の大地から独自の音楽を発信し続ける注目のドラマー／パーカッショニスト＝常松将行に話を聞いた。

【2016年11月 取材・文：加瀬正之】

● 今年2016年10月にワートシンフォニーの2ndアルバム『地平線に見る夢』をリリースされましたが、今改めて特別な思いはありますか？

同じプロジェクトで続けてリリース出来るのは嬉しいですし特別に感じます。今作は僕以外のメンバーも作曲し、あらゆるジャンルの音楽も取り入れ、たくさんの方の参加がとても良い作品へと繋がりました。なので、前作からステップアップ出来たのと同時に、前作の延長上ではない違った雰囲気の商品になったのが前作をより貴重な作品にもしてくれました。流通の範囲も広がったのも嬉しいです。

● ワートシンフォニー結成の経緯について聞かせて下さい。メンバーはどのように選ばれたのですか？

19歳の時に鼓童の「佐渡へ」という演奏をDVDで観てから日本と西洋の音楽を融合したものをやりたい、というのがきっかけでした。2007年から音楽活動を開始し、僕がそれを実現出来そうと思ったメンバーに徐々に会いに行き、2013年10月に結成に至りました。ただ、結成当初は僕の頭の中の構想を音源や楽譜を通してメンバーに伝えていくという感じで、実際にどのように完成されていくかメンバーは予測出来なかったと思います（笑）。

● ワートシンフォニー以外の活動について聞かせて下さい。

ワートシンフォニー結成以前から、エレクトロニカ・ポップユニットの「木箱」のサポートでメジャーリリースの作品を含めたレコーディングに参加し、その流れでライブやツアーにも参加しました。また、ワートシンフォニー以外で今までに2枚のリーダー作品を出しています。そのうちの1つはドラムソロを中心とした作品で、その発売を記念した100分のドラムソロコンサートも行いました。

● 4歳の時にピアノを始められて、9歳の時にドラムに転向されたそうですが、何か特別なきっかけがあったのですか？ 最初に憧れたドラマーは誰ですか？

きっかけはドラムの音とルックスです（笑）。なので、最初はドラマーの名前とか全然知らなかったです（笑）。その中で一番最初に衝撃を受けたのはレッド・ツェッペリンのジョン・ボーナムです。

● 強い影響を受けた3人のドラマーを挙げて下さい。

自分のスタイルを形成する上で影響を受けたのは林英哲さん（太鼓奏者）、アル・ジャクソン Jr. (Booker T. & the M.G.'s)、プライアン・ブレイドです。

● 2005年にLos AngelesのMusicians Institute-PITに留学されましたが、その経験は大きかったですか？

自分の音楽や演奏のスタイルは日本や北海道との結びつきがとても強いですが、それを形成する上で重要な技術は全て留学先で学んだ事なのでとても大きいです。

● 常松さんは北海道札幌市出身で、現在も札幌を拠点に活動されていますが、北海道、札幌に対する思いについて聞かせて下さい。

これも留学先での経験になりますが、各国の音楽はその国の土地柄・気候・歴史・建築・文化があって生まれているのを強く感じました、いわゆる今の時代のポピュラー音楽はアメリカから来ているので、向こうの方が音楽が生活に密接だったんですね。そこから自分の生まれた北海道・札幌ではないと生み出せない新しい音楽をやりたいという想いから札幌を拠点に活動をしています。「地平線

見る夢」ではアイヌの伝統楽器、ムックリを取り入れました。

● 常松さんはいわゆる“ジャズ・ドラマー”という肩書とは異なると思いますが、ジャズとの出会い、ジャズへの思いについて聞かせて下さい。

初めてジャズの演奏を聴いたのはソニー・ロリンズの『サキソフォン・コロッセア』でした。ドラムセットはジャズで生まれたのでジャズ・ドラマーではなくてもジャズはドラムセットのあり方を知る上でとても重要だと思います。メロディー、ハーモニー、リズムに対してのアプローチやダイナミクスの作り方、演奏中の周囲への対応等、ジャズ・ドラマーではないですがジャズから学ぶ事は多いです。

● 21歳から音楽専門学校／教室の講師をされていますが、ドラマー／パーカッショニストとして一番大切なことは何ですか？

“自分自身と向き合い自分の出来る最大限で物事に貢献していく”を、音楽や楽器を通じて共有出来ればと思っています。

● どのようなドラマー／パーカッショニストを目指していますか？

日本と西洋の音楽性を結ぶドラマー／パーカッショニストを目指しています。

● 作曲はどのようにされるのですか？

基本的にはピアノで作曲して行きます。メロディーから作る場合が多いですが、ハーモニーから入る時もありますし、「地平線で見る夢」の「WaART Groove!!!」関係はリズムといいますが自分のパートから作って行きました。リズムから作ることは少ないです。

● ジャンルに関わらず共演してみたいミュージシャンはいますか？

前回インタビューを受けていたケニー・ギャレットのように日本の音楽に興味がある海外のミュージシャンとは沢山共演してみたいです。



● 音楽以外の趣味はありますか？

伊藤若冲の作品、小説やビジネス書等の読書、あと「君の名は。」の新海誠監督の作品は今作からではなく前からファンでした（笑）。

● 2017年はどんな年にしたいですか？ 2017年に実現してみたいことはありますか？

プロジェクトで言いましたら、女優・歌手の秋夢乃さんとのレコーディングを予定しています。僕の作曲した楽曲で秋さんの素晴らしい歌声と一緒に奏でられるのが今からとても楽しみです。今年はワートシンフォニーで初めて東京でのコンサートを行えたので、来年は更に自分の活動の範囲を広げていきたいです。

● 将来の夢は何ですか？

北海道・札幌を拠点にこの地でしか生まれえない、そして、自分にしか出来ない音楽を発信し、国際的に活動し、社会に貢献することです。

● 最後に『The Walker's』読者とファンの皆さんにメッセージをお願いします。

このインタビューを読んでいただいて本当に感謝の言葉しかありません。これをきっかけにたくさんの方と音楽を通じた交流が出来ればとても嬉しいです！

常松将行 HP ⇒ <http://spiritual-rhythm.com/>

ワートシンフォニー HP ⇒ <http://waartsymphony.com/>



未来への道を描く人
ワートシンフォニー

The North Origin Records
(TNOR-003)

* 本誌編集長がライナーノーツ
を書かせて頂きました。

2015年5月発売のワートシンフォニーの1st アルバム



地平線で見る夢
ワートシンフォニー

The North Origin Records
(TNOR-004)

* 本誌編集長がライナーノーツ
を書かせて頂きました。

2016年10月発売のワートシンフォニーの2nd アルバム